

とつとつ通信

2021年9月16日発行

222号

通信は
読んでとつとつ。
いつも読んでくださ
ありがとうございます。

こんにちは！平川です。朝夕はずいぶん涼しくなりました。いかがお過ごしでしょうか。突然ですが子供供ってほんと想像もつかない事をしますよね。親から見たら「大丈夫かな？この子は、みたいな。さて今回も、しゃーもない話です。どうぞお付き合い下さい。では、今月もはりきっていきましょう。

あん頃のぼくらにはアホやっただ3

私は小学生の頃、自分でも不思議なくらいに、おしゃべりが多く、落ち着きのない子だった。新学期になるとクジ引きで席替えがある。これは子供達にとって一大イベントだったが、先生は毎回私だけ引かせてくれなかった。なぜなら私の席は教壇の真ん前と決まっていたから。いつでも定規で叩けるようにとの理由から。今思えば笑える話である。



小学校四年生の時、ある遊びが大流行した。当時、給食に出る牛乳はビン型で、なせかそのフタを集めるのが流行した。遊び方は、五六人でフタを表にして重ね、ジャンケンで勝った順に、指のツ

メでフタの端をはじき、裏返した分をもらせる。という単純な遊び。

昼休みには、ほとんどの生徒が教室でやっていた。私は大きなダンボール箱に、いっぱい持っていた。おそろく学校で一番持っていたと思う。宝物だった。ところが四年生の三学期、親の仕事の関係で、佐世保市から福岡市へ転校することになる。集めたフタをどうしようかと悩んだあげく、置き土産のつもりだったのだろう、みんなにあげることにした。さて、どうやってあげようかと考え、いい案を思いついた。放課後、みんなに外に集ってもらい、私は校舎の屋上へ行き、フタをばらまいたのだ。何枚枚とヒラヒラ舞いながら落ちていた。すると降ってきたフタに気づいた先生が見上げると、花咲かじいさんのように、ばらまいている私を見つけ、あわてて屋上へやってきた。私は、こびこびと怒られ、散らばったフタを一人で拾われ、宝物はすべて焼却炉行きとなった。他にもこんな遊びが流行った。煙幕

という花火をご存知だろうか？直径三センチ程の黒い玉に、導火線がついていて、火をつけるとモクモク煙が出る。ただそれだけの花火である。昭和45年頃の電話ボックスは、写真のように、入口の取っ



手に直径10センチ程の丸い穴があった。私たちは電話ボックスへ入らずに入り、そこへ煙幕を入れ、たちまち煙が充満し何も見えなくなる。続けざまに爆竹を入れる。私は取っ手の穴から口を出し、ハアハアと空気を吸いじつと耐える。耐える時間が長いほど根性のあるヤツと認められるアホな遊びだった。髪のもやもやに煙の臭いが染み付き、よく母親に怒られた。またロケット花火でもよく遊んだ。2チームに分かれ、コカコーラのビンにロケット花火をさし、打ち合う。体を守るため、ダンボールで鎧らしきものを作ったが、動きが鈍くなりよけい狙われた。ある日の夕方、事件が起きる。私たちは何を思ったのか、今から職員室を攻撃しに行こう」と言い出した。まったくあきれた話である。そこには友達が7、8人いたが、中には小学2年生の妹もいて、

わけも分からずについてきた。薄暗くなった小学校へ行き、まずは逃げる場所を裏山と決めた。そして、ほふく前進で職員室へ近づくと5、6人の先生がせわしく仕事をしているのが見えた。私たちは、いっせに火をつけ職員室めがけ放った。弧を描いたロケット花火は、窓ガラスにコッソリと何とも弱々しく当たり、それに気づいた先生が「コラー、誰だー」と叫びながら、こっちへ走ってきた。「うあー、逃げろー」私は今にも泣き出しそうな妹の手を引いて、真っ暗な裏山へ一目散に逃げた。暗くて山道が見えず、すぐ横を流れる川へ落ちそうになり、あの時は本当に怖かった。あれから47年。お正月には親戚がうちに来るが、すると妹が「あの時は怖かった。ほんとにお兄ちゃんたち、アホやと思っただけ今でも酒の肴に盛り上がる。ズ追伸、そう言えば運動会の時、足袋をはいていたのは、うちの小学校だけだろうか？



発行／有限会社アサム
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・専門学校&スクールサーチ: <http://www.asamnet.jp/>
・ブログ: <https://itorinri.com/>